

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
人権教育の充実	全ての教育活動を通じて、人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。	① 生徒の自立と自己実現を図る。	1 「人権の日」を実施し、日常生活の中で生徒の人権意識の涵養を図るように努める。	生徒アンケートで「人権の日が有意義であった」を80%以上にする。	達成度は89%であり、生徒の人権意識の涵養に一定の成果があった。	A	B 「人権の日」と「ホームルーム活動（人権）」に対する生徒の評価は、いずれも評価指標を達成できた。しかし、昨年度より数値が下がっているので、いま一度内容等の充実をはかりたい。大島青松園訪問は実施出来なかったが、美馬フィールドワークとその他の教職員研修の評価も評価指標を達成できた。この結果を受け、本校の人権教育は、評価指標のとおり達成できた。	継続的な人権学習活動や講演会を開催することで、人権教育に向けての啓発活動が実践できていると感じられる。今後も更なる人権意識高揚に努めてほしい。 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中で、可能な限り取り組んでいる。今後もより一層の人権啓発活動を展開できるよう取組を継続してほしい。 また、来年度以降は、アフターコロナを見据えて、学校や保護者、地域が連携した人権啓発活動に関する諸行事等も開催できるような環境整備を考えていただきたい。	「ホームルーム活動（人権）」において、自分の意見を発表するなど積極的に取り組む生徒をふやしたい。コロナウイルス感染症の収束後になるが、差別の実態に学ぶ体験型の人権学習を進めるため、大島青松園でハンセン病回復者と生徒・教職員・保護者の交流会を再開したい。また、美馬フィールドワークも継続して実施し、地域や実態に学ぶ教職員の研修を深めていく。そして、教育活動全てにおいて、人権について考える機会を積極的に取り入れていく。生徒の自主活動に関しては、人権部員の勧誘を進める必要がある。
			2 「ホームルーム活動（人権）」を実施する際に、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組み、個人人権課題を積極的に取り組む。	生徒アンケートで「ホームルーム活動（人権）が有意義であった」を80%以上にする。	達成度は91%であり、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組むことができた。	A			
		② 教職員研修の充実を図る。	1 美馬フィールドワークを実施し、地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組む。	教職員アンケートで「美馬フィールドワークが有意義であった」を80%以上にする。	達成度は100%であり、地域の方々の思いを一端ではあるが、感じ取ることができた。	A			
			2 人権教育に関する研究授業・研究協議に、参加該当教職員で取り組む。	教職員アンケートで「研究授業・研究協議が有意義であった」を80%以上にする。	担任中心に参加したが、「十分有意義」「概ね有意義」が100%であり、研究授業・研究協議が教職員の授業に生かされた。	A			
			3 ホームルーム活動（人権）や人権の日で、担任だけでなく副担・所属協力の下、指導案作成や資料作成を2回実施する。	教職員アンケートで「指導案や資料を協力して作成することにより、より内容が充実した」を50%以上にする。	本年度、全体としてのチームティーチングは実施しなかったが、一部では正副担任の先生で協力して実施していたクラスもあった。	B			
		③ 学校・家庭・地域の連携の推進を図る。	1 人権教育講演会や研修会に、保護者や地域の方々の参加を得る。	人権教育講演会や研修会に、保護者や地域の方々から5名以上の参加を得る。	コロナウイルス感染症流行のため、保護者参加の学校行事を実施できなかった。	B			
			2 異校種間交流の充実に努める。	特別支援学校や地域の小中学校等に、専門学校としての技術やスキル・それを使って制作した物を提供する機会を1回は持つ。	昨年度までの「ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業」は無くなったが、継続して地域貢献活動を行っている。また、地元小学校へのプログラミング出前授業を実施するなど異校種間交流もできた。	B			
		④ 生徒の自主活動の活性化を図る。	1 美馬高校生友の会や「中・高生による人権交流事業」等校外の自習活動に積極的に参加する。	美馬高校生友の会や「中・高生による人権交流事業」西部ブロック実行委員会及び生徒部会に、年間10回以上（合計）参加する。	部員が少ないこともあり、その生徒が参加できなければ学校として参加できないときもあったが、ほぼ目標に近い回数参加することができた。	C			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
	全体レベル	下位組織レベル							
学習指導の充実	主体的・対話的で深い学びを実践するための指導方法の工夫・改善により、「確かな学力」の向上を図る。	①	主体的に学習に取り組む、他の人と協働しながら学ぶ態度を育てる。	1	全ての教科で学習目標を明確にし、学習内容の意義を自覚させることで、生徒が主体的に学ぶ意欲と態度を充実させる。 【主】生徒アンケート「主体的に授業に取り組むことができたか」を80％以上にする。 【思】職員アンケート「授業中、ICTの活用やアクティブラーニング等による対話的な授業の実践に努めたか」を80％以上にする。	生徒アンケートでは82％の生徒が主体的に授業に取り組むことができたと答えた。職員アンケートでは92％が実践に努めたと回答した。電子黒板を活用した授業に満足しているかとの問いに94％の生徒が満足したと回答している。	A	A	生徒は、「基礎学」(朝15分間の学習)を含め、主体的に学習活動に向け取り組めており、授業に対する満足度も高く充実した授業が実践できている。 また、ICTを活用した授業により、生徒に対してわかりやすい授業が展開できている。そのことが、生徒の意欲向上につながっていると感じられる。 工業と商業が連携した教育体制や、各種検定資格取得は、本校教育の重点目標であることから、成果をあげられているが、一部の検定で合格者数や合格率が低いものがある。専門高校にとって、資格取得は非常に重要であり、十分な成果があげられるように学習指導の充実にも努めてもらいたい。 今年度は、予算がないなかで、地域に対する貢献活動に取り組めており、成果も出ている。
				2	各教科における調べ学習や読書会等とおして学校図書・計画的な利活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。 【主】各クラス年1回以上図書室を利用し、学習活動を行う。 【主】読書会を年1回以上企画する。	目標どおり達成できた。	A		
		②	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。	1	「基礎学」(朝15分間)の時間を計画的に実施し、基礎学力の定着・向上を図る。 【知】生徒アンケート「基礎学の時間は有意義だった」を85％以上にする。	生徒の94％が有意義だったと答えた。	A		
				2	進学補習を計画的に実施し、普通教科の学力を向上する。 【主】進学補習参加率を80％以上にする。	部活動と資格補習のため、進学補習への参加率は46.7％に留まり、目標を達成できず。ただし、欠席者にはClassiなどで課題を配信し補った。	B		
		③	知識・技能を活用して、課題の解決を目指し、自分の考えを表現する態度を育む。	1	【主・知】各学科で基礎・基本となる資格検定を設定し、1年次において取得率85％以上にする。 各種資格の学習をとおして、知識技能を身に付けるための学習方法を習得するとともに、自らの職業意識を高め、進路の方向性を見いだす力を養う。	(電)第2種電気工事士 77.0％ (電)第2級デジタル通信 60.5％ (機・建)計算技術検定3級 78.8％ (商)全商3級5種目取得率 69.1％ (地)全商の主催する検定(電卓・情報処理・簿記・ビジネス文書・商業経済)のいずれか3級を取得率100％	B		
					【主・知・思】難関国家資格・検定試験の受験を奨励し、地域社会の発展に貢献できる技術者の育成を目指す。 第三種電気主任技術者試験合格 1名以上 ジュニアマイスターゴールド取得 3名以上 2級土木施工技術者試験合格 1名以上 2級建築施工技術者試験合格 1名以上 全商3種目1級資格取得 5名以上	第三種電気主任技術者試験合格者なし ジュニアマイスター特別表彰ゴールド1名 ジュニアマイスターゴールド5名 2級土木施工管理技士試験合格7名 2級建築施工管理技士試験合格3名 全商3種目1級資格取得17名	B		
				2	【主・知・思】学習の成果を各科の発表会や課題研究概要集の形で発表し、生徒の自己評価シートによる目標達成度を85％以上にする。	3年生の87％が課題の解決に向け主体的に学習に取り組めたと回答した。	A		
					【主・知・思】各科の専門を生かした地域貢献活動に取り組み、生徒の自己評価シートによる目標達成度85％以上にする。	地域貢献活動に取り組んだ生徒の大半が十分に目標を達成したと回答した。	A		

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針	
	全体レベル	下位組織レベル								
キャリア教育の充実	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育成する。	① 自己の特性を理解させ、自らのあり方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。	1	進路に関するHR活動及び、進路相談を計画的に実施する。	生徒・保護者アンケート回答での「進路指導が役に立っている」の評価を85%以上にする。	生徒の93%, 保護者の91%が「役に立っている」と回答している。	A	A 就職希望者全員が内定を得ることができたのは、旧2校をはじめ、つるぎ高校の卒業生が全国各地で長年に渡って活躍されているお陰である。しかし、その背景には長年に渡り保護者・生徒・教職員が一丸となって営々と築いてきた本校の教育実績がある。 また進学についても、個別指導に重点を置いた、生徒個々の実力に見合ったきめ細かい指導の結果、ほぼ希望した大学等に進学できた。	生徒一人一人に対するきめ細やかな指導により、進路を実現している。それが、生徒の高い満足度に繋がっている。引き続き、進路指導に取り組んでほしい。 県外で学んだ後、地元に戻ってきて欲しいと思っている保護者もいる。多様な希望に答えられるようさらなる進路指導の充実に取り組んで欲しい。	キャリア教育を1年時より継続的に実施し、自分らしい生き方を実現するための力を育成していく。また、インターシップを奨励し、職業観・勤労観の充実に繋げていく。 企業選択時のミスマッチを可能な限り少なくできるように、進路に関する情報を積極的に発信し、生徒・保護者の進路選択に役立てるように努める。
			2	進路説明会・進路通信をとおりて、生徒・保護者に進路情報を提供する。	進路説明会と進路通信を、年3回以上発行する。	進路ガイダンスについては、3年生は5月に就職(面接指導)と進学(学校別説明会)、1、2年生は10月に合同で就職(職業説明)と進学(学部学科説明)を行った。進路通信を年1回発行した。	B			
		② 望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた、進路の実現を図る。	1	三者面談や個別指導などとおして、生徒・保護者の希望・適性に応じた進路指導を実施する。	「希望・適性に合った進路決定ができた」の生徒アンケート回答を85%以上にする。	生徒の94%が、「自分の進路結果に満足している」と回答している。	A			
			2	SPIなど、学力試験の変化に対応した模擬試験を実施する。	就職試験(1次)での内定率を80%以上にする。	就職試験(1次)での内定率は、95.8%であった。	A			
		③ 進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。	1	企業訪問、電話連絡及びWeb相談を実施し、就職求人数を確保する。	訪問及び電話連絡企業数を80社以上、求人数を300人以上にする。	新型コロナウイルス感染症のため企業訪問は四国内のみ行い、四国外は電話連絡のみとした。求人数は1,700人以上であった。	A			
生徒指導の充実	学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開し、暴力・いじめのない良好な人間関係づくりと安全・安心な学校づくりに努める。	① 基本的な生活習慣を確立し、よき伝統の育成に努める。	1	服装・頭髪検査に合格しない生徒には保護者と協力し、粘り強く指導を行う。	頭髪服装検査を年10回以上行う。	全校集会時に実施していたので、集会ができず評価指標どおりはできなかったが、学年別及びクラスごとにポイントポイントで実施した。	B	A 朝の登校指導や昼食時間の巡視など日頃の先生方の地道な指導で、生徒は全体的に、校内外を問わず挨拶ができ、服装・頭髪などの身だしなみもきちんとできると、地域や企業の方々からの評価は高い。 SNSやインターネットに関するトラブルについては、継続的に指導を行っており、成果も出ている。生徒にとってスマホは身近なものであり、今後トラブルに巻き込まれる可能性もあるので、引き続き、情報モラルなどの指導を行って欲しい。 原付を通学に使用している生徒もあり、交通事故がないように今後も危険回避できる能力の育成が大切であり、安全教育の指導・充実に努めてほしい。	暴力いじめについての指導も引き続き取り組み、登下校時、校内外の巡視及び各学期の被害調査等を通し、問題行動の未然防止と早期発見に努める。通学途中のマナー・モラルの指導は、集会やリモート配信をとおりて指導し、通学経路や危険箇所等での立哨も併せて継続して取り組んでいく。 SNSの使用については、現在、生徒指導における主たる課題であり、(昨年度は特別指導の大半を占めた)正しいルールでスマホを使用することについて様々な施策を講じなければならないと感じている。来年度は外部から講師を招聘し、講演会を開催することをはじめ、全校集会、学年集会、HR活動等あらゆる機会を捉えて指導していきたい。 登下校時の交通安全については、無事故・無違反を目標に、あらゆる機会を捉えルール、マナーの遵守を徹底し指導する。また警察とも連携を密にとりながら指導の強化に努めていく。	
			2	遅刻過多の生徒については保護者と綿密な連携をとり、指導する。	遅刻者0名の日を年間50日以上にする。	目標日数は達成できなかった。(41日)コロナ禍の影響が大いと思われる。保護者との連携、登下校指導などの効果は見られた。	B			
		② 交通安全意識の高揚と交通安全マナーの向上を目指し、交通安全教育の推進を図る。	1	JR貞光駅から校門までの交通危険箇所での立哨指導を行う。特に下校時の巡視を徹底する。	登校下校の立哨指導を授業日の95%以上行う。	立哨指導を100%実施できた。特に駅から通学路、踏切、校門までの登下校指導は徹底できた。	A			
			2	通学別集会を各学期毎に行い、マナー・モラル向上を徹底し、登下校するよう指導する。	交通安全行事(通学別集会・交通安全講習他)を年5回以上実施する。	1、2年生は4回、3年生は5回実施した。交通事故件数も0件であった。	A			
		③ 良好な対人関係を構築できる社会性を育成し、暴力いじめ等重大な人権侵害を未然に防止する態勢を整える。	1	各課において道徳教育の目標を定め、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。	各課・各学年において、それぞれ具体的な取組を行う。	全校集会はできなかったが、リモートでの始・終業式及び学年集会時に徹底した指導ができた。	A			
				2	無記名による被害調査を実施し、暴力・いじめにつながる行動などを把握し対応する。	暴力・いじめ等に関する調査を無記名で年3回実施する。	評価指標どおり3回実施できた。各学期に実施することができ、職員会議で共通理解を図り、HR担任との連携を密にとり対応できた。			A
			3	携帯・スマホを適切に使用するため、全校・学年集会において常に注意喚起を促す。有害サイトへのアクセス、誹謗中傷などマナー・モラルに反する書き込みをしないよう指導を徹底する。	携帯・スマホ安全教室(講演)を年1回以上実施する。	緊急事態宣言下でいずれも実施できなかった。学年集会等とおしてスマホの取り扱いについては注意喚起を行った。来年度は2回実施したい。	B			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
主権者教育・消費者教育の充実	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。 環境や社会に配慮した消費者教育の充実を図り、主体的に取り組む態度を育成する。	①	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。	1 主権者教育を推進する上で、教員が留意すべきことについての共通理解を図るための研修を行う。	主権者教育に関する研修を、年1回実施する。	国政・地方選挙などが実施されるたびに、研修(説明・お願いなど)を実施できた。(1回以上)	A	主権者教育を進めることで、地域の課題を自ら考え、協力して主体的に解決できる能力を育てたい。18歳で成人となる現代社会において、政治への関心をより一層高め、投票率が上がるように若者の育成に努めてほしい。	教職員に主権者教育の研修を適宜行い、共通理解を図る。 主権者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において消費者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。
			政治の仕組みや知識の習得だけでなく、主権者として自覚し、他者と連携・共同しながら地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身につけさせる。	各教科・HRで主権者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を65%以上にする。	2学年で「よりよい社会を造るために、一票の意義」というテーマで出前講座を実施した。現代社会の授業においても十分主権者教育ができた。	A			
		②	持続可能な生産と消費を重視した活動において、主体的に取り組む態度を育成する教育の充実を図る。	1 自立した消費者をめざし、消費者の権利と責任を理解し、消費者問題に取り組む姿勢を養う。	消費者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を90%以上にする。	2年生全クラスを対象に消費者教育の授業を行った。			
			企業の社会的役割やソーシャルマーケティングを学習し、消費者教育の充実を図る。	消費者教育に関する授業を年1回実施する。	SMBCコンシューマーファイナンス(株)から講師を招き、Zoomを使ってリモート型消費者教育を2年生機械科を対象に行った。	A			
特別活動の推進	学校行事、生徒会活動の充実を図り、ボランティア活動等の機会を取り入れることにより、豊かな人間性を育成する。 部活動の充実・活性化により、心身両面における成長を図るとともに、団結力や協調性を育成する。	①	生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。	1 生徒会新聞の発行とホームページの更新を適宜行う。	生徒及び職員の生徒会活動に対する満足度を90%以上にする。	生徒会新聞の発行とHPの更新も適宜行った。	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が制限される中、体育部・文化部とも十分な成果をあげており、大変素晴らしいと感じている。全国選抜大会に出場を決めている部活動には、県代表として頑張っている。また、全ての部活動においては、活動を活性化させ、豊かな人間性を育成に、より一層取り組んで欲しい。
			各種委員会を活性化させる。	1 各種委員会が主体となった学校行事を実施する。	生徒及び職員の学校行事に対する満足度を90%以上にする。	満足度は生徒が96%で、職員が100%であった。			
		③	部活動への入部率及び継続率を向上させる。	1 部活動入部までの放課後の時間(見学できる時間)を確保する。	部活動入部率・継続率の向上(入部率90%以上、1年間継続率95%以上)	部活導入部率が99%、1年間継続率が95%であった。			
		④	部の活動に奉仕活動を加え、豊かな人間性の育成に努める。	1 各部活動が自主的に奉仕活動を実施する。	5部以上の部活動が奉仕活動を実施する。	JRC部、ラグビー部、サッカー部、ソフトテニス部、バスケットボール部、レスリング部などが奉仕活動を実施した。			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
	全体レベル	下位組織レベル							
教育相談・特別支援教育の推進	学校全体での組織的支援体制及び関連機関との連携による支援体制の充実を図る。	① 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。	1 特別支援教育に関する職員研修会を実施する。	職員研修会を年1回以上行う。	特別支援教育に関する職員研修会を年2回実施し、合理的な配慮を必要とする生徒への理解を深めた。	A	A	特別な支援が必要な生徒に対して、教員研修会等計画的に実施するなど、組織的に対応できている。今後も、支援が必要な生徒は増加傾向にあるため引き続き取り組んで欲しい。 スクールカウンセラーが、定期的に来校するようになったことは良いことである。生徒一人一人にきめ細やかな指導を引き続き行っていく。	特別支援教育の職員研修を充実させ、全教職員の理解を深め教育力の向上を図っていく。また、様々な支援事業や発達障がい者支援センターアイリス・スクールカウンセラー・巡回指導員・大学等の機関と連携を深め、支援が必要な時にすばやく対応できる体制を構築していく。 全職員を対象に「心肺蘇生法とエビベン実技講習会」を実施し、緊急事態時にAEDやエビベンを迅速に使用できるようにする。
			2 支援が必要な生徒には、個別の支援計画を立て、カウンセラーや専門機関と連携して支援を行う。	支援が必要な生徒に、個別の支援計画を立てる。	個別の支援計画は現在作成中である。また本年度よりスクールカウンセラーが月2回在校し、相談体制の充実を図った。教育相談便りを年2回発行し、教育相談の案内を広報した。	A			
		② 教育相談活動の一層の充実を図る。	1 一人一人の生徒への声かけや定期的な個人面談による教育相談を行う。	生徒保健委員会を毎月開催するとともに、保健だよりを毎月発行し、保健に関する啓発活動を行う。	保健委員会・保健だよりともに、毎月開催・発行した。保健室において、個人面談による教育相談を行った。	A			
			2 生徒一人一人の心身の状況を把握するために「悩み・心配事」の調査を行う。	「悩み・心配事」の調査を年2回実施する。	「悩み・心配事」の調査を年2回実施し、調査結果を職員会議で教職員に報告し、情報の共有化を図った。	A			
環境・防災・安全教育の推進	環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 防災教育を推進し、災害発生時の支援活動等の実践力を育成する。	① 環境問題学習の一層の推進と啓発を進める。	1 環境保全活動啓発ポスターの作成・掲示を行うことにより、省エネ・エコ意識を高揚させ、節電・節水に努める。	室内温度を観察しながら、生徒の体調に配慮し、エアコンの運転を適切に行う。プルタブ、ペットボトルキャップの分別回収を徹底する。	大幅な節電はできなかったが、グラフ掲示により、電力使用状況の可視化ができた。プルタブ・ペットボトルキャップの回収に努めた。	B	A	生徒の教育環境を整えることで、生徒の体調を考慮しながら節電を心掛けて欲しい。 災害時の行動を自らの判断で命を守るとともに、他者と助け合う力の育成に向け、防災教育を今後も継続して欲しい。また、職員対象のAED講習会も継続して欲しい。	エネルギー教育について、どのような切迫した課題があるのかを、具体的に学ぶ機会を設定するなどして取り組む必要がある。 清掃活動については、日々真面目に実施できている。その上で地域での清掃活動を更に充実させたい。 防災教育について、生徒は防災訓練に真摯に取り組んでいるが、マンネリ化しているところもあるので、工夫を凝らし新たな訓練等を考えるなど質の向上に努めたい。
			1 全職員による毎日の清掃指導を実施し、教室の清掃を丁寧に行い、清潔な学習環境を作る。	職員及び生徒の、実施できているという自己評価を95%以上にする。	「十分できている」「おおむねできている」の自己評価が職員100%、生徒98%であり、達成できた。	A			
		② 校内・校外清掃の活性化を図る。	2 生徒が利用している校外の施設等の清掃活動を行い、地域の環境美化に努める。	年1回以上、貞光駅や吉野川周辺の清掃活動を行う。	実施できた。生徒も真剣に取り組んでいた。	A			
			1 防災訓練を実施する。	火災を想定した防災訓練とAED講習会を行う。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小して防災訓練を実施した。	A			
		③ 防災・安全教育を推進する。	2 新型肺炎に配慮しながらAED講習会を実施する。	職員アンケート「AEDを使用できる」を95%以上にする。	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらAED講習会を実施し、「AEDを使用できる」「AEDをおおむね使用できる」が100%となった。	A			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	全体レベル	下位組織レベル								
地域とともにある学校づくりの推進	保護者や地域社会との連携を密にし、学校教育活動全体にわたって地域の教育力を生かすとともに、ホームページ等を活用し積極的に情報発信を行う。	①情報発信を積極的に行う。	1	ホームページを利用して、行事など生徒の活動や各種情報を発信する。	ホームページを更新し、最新情報を提供する。(更新回数70回以上)	ホームページは64回の更新を行った(3/4現在)	B	B 昨年度に引き続きコロナ禍の影響により、PTA総会等、各種の活動が開催できなかった。 夏休みに行われる中学生体験入学が中止となったが、秋のオープンスクールには中学生が127名参加し、どの授業も中学生が詰めかけ大変な活況であった。各中学校での進学説明会でも大変熱心に話を聞いてくださり、本校に対する期待を感じることができた。	西部地域の人口減少もあり、生徒募集に苦慮されていると感じるが、今後も学校PR活動に積極的に取り組んで欲しい。	数年間、猛威をふるったコロナ禍にも一旦の終息が見え始めた。従来のPTA活動への回復が叶うことを期待したい。 生徒募集の面では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に講じながら、進学説明会、中学生体験入学、オープンスクール等を通じて本校のPR活動を充実させていきたい。
			2	マスメディア等を通じて、学校情報を積極的に発信する。	徳島新聞、四国放送、NHK等に資料提供を積極的に行う。	徳島新聞等に113回、テレビ・ラジオ等にも複数回取り上げられ、本校生徒の活躍が紹介された。(3/4現在)	A			
		②PTA活動の活性化を図る。	1	PTA総会・役員会の活性化を図り、参加率を向上させる。	役員会40%以上、総会30%以上の参加を得る。	役員会は42.3%、昨年に引き続き、総会は紙面開催となり、回答率は99.6%であった。	B			
			2	体育祭等の行事で、PTA家庭教育研修部による模擬店や展示を実施する。	体育祭等の行事において、PTA家庭教育研修部役員の参加率50%以上を得る。	コロナ禍により、PTA活動に関する各種行事の開催ができなかった。	B			
		③中学校との連携を図る。	1	中学生体験入学を充実する。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施を見送り、10月のオープンスクールでの中学校との連携を図ることとなった。	C			
地域と連携した専門教育の充実	6次産業化に向けた取組等により、地域貢献につながる実践力を育成する。	①行政機関との連携強化を図る。	1	つるぎ町及び美馬市と連携した地域貢献活動を推進する。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のPR活動を行う。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のPR活動を行うことができた。	A	A 本年度はスーパーオンリーワンハイスクール事業やふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業の予算はなかったが可能な範囲で地域活動に積極的に参加することができた。	つるぎ町をPRする活動として、つるぎ町観光土産品の商品開発や、世界農業遺産地区での体験活動、台湾二林工商とのオンライン交流や様々な地域貢献活動への取組。さらにJR四国と連携したトロッコ列車のおもてなし事業の企画立案等新しい試みも見られた。今後も地域と連携し特色を活かした取組に期待する。	今後も県や地元の事業に積極的に参加して、地域貢献と地域の活性化をめざしていきたい。また、生徒がより積極的に構内外での活動に取り組めるよう支援していきたい。
			②企業との連携強化を図る。	1	企業と連携した地域貢献活動を推進する。	美馬交流館と協力し、「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案する。	美馬交流館と協力し、「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案することができた。トロッコ列車のおもてなし活動での生トウガラシの配布も実施することができた。			
		2		販売実習・インターンシップ等を積極的にを行い、職業・勤労意識を高める。	販売実習・インターンシップ参加生徒の満足度を85%以上にする。	インターンシップ16社37名が積極的に参加した。参加者の満足度は100%である。 販売実習はヴォルティスの試合日に学園祭に参加し、みまからフランクやみまからつくねの販売、VR体験なども実施することができた。	A			
		③地域との連携強化を図る。	1	商品開発・伝統工芸(野鍛冶・石積み)の継承や観光振興を地域と連携し活動を推進する。	地元の特産物を使用した商品開発、お土産品の作成、和紙を使った和傘作りや藍染体験等を行う。	本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で和傘等は実施できなかったが、美馬和傘集団の方々の協力で、過去に生徒が制作した作品を協町のミライズで2ヶ月間展示していただいた。	B			

重点課題	重点目標		活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	全体レベル	下位組織レベル								
工業・商業教育の推進	各種競技会等へ積極的に参加し、国家資格、検定試験等に全力を挙げて取り組む。 スーパーオンリーワンハイスクール事業・ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業等の成果を生かし、グローバル化に対応したつるぎ高校ならではの教育を推進する。	①	3年間をとおして職業資格・検定の取得を行うと共に、各種競技会へ参加する。	1	3年間の資格・検定取得指導体制を取り、全校生徒が複数の資格・検定を取得する。 工業学会優秀生徒表彰(資格)を75%以上にする。 全国商業高等学校協会主催の検定3種目以上1級取得者を10%以上にする。 他科の資格・検定取得者数を10名以上にする。	工業学会優秀生徒表彰は110名中83名で75.5%となった。 全国商業高等学校協会主催検定3種目以上1級合格者は、17名であった。	A	A	本年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、大会等は開催され、生徒達も新たな目標を設定しつつ良く頑張っている。今後も引き続き、資格取得や各種競技会での活躍や、地域と連携した特色ある学校づくりを目指してほしい。	次年度も工業科商業科ともに資格・検定の取得に意欲的に取り組むことで、進路実現につなげていきたい。新型コロナウイルス感染症の影響により、全国大会や各種競技大会や各種資格検定の対策もこれまで以上に柔軟な対応が必要と思われるが、次年度の目標設定をしっかりと確率していきたい。
			競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・ビジネス計算競技大会・簿記競技大会等に出場し、全国大会に出場する。	2	工業科・商業科とも全国大会へ、1種目以上出場する。	高校生ロボット競技大会は県予選で準優勝し全国大会に出場した。マイコンカーラリーは四国大会3位で、全国大会に出場した。 また、商業の各種競技会は予定通り開催され、経理部が県大会で優勝し四国大会でも全国大会でも上位入賞を果たした。	A			
		②	工業科・商業科に渡る知識と技術を生かし、共同しながら特色ある教育を展開する。	1	「地域創生」「世界農業遺産」等を教材とした実践的学習を確立する。	「地域の伝統文化に学ぶ」コンテストに工業科と商業科が連携して応募する。	「地域の伝統文化に学ぶ」コンテストに工業科と商業科が連携して応募することはできなかったが、傾斜地での体験活動やつるぎ町との連携活動は実施することができた。			